

出題分析		
試験時間 90分	配点 ※	大問数 6題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 関西学院大学の英語の大問構成は、長文読解3つ、文法・語法、和文対照英文整序、会話文空所補充(全6題)という形に落ち着いており、今年もその構成が踏襲されている。本日の日程では、大問Iで文章に関連したグラフが添えられていた。長文読解、文法・語法、会話文、いずれも難解な問題は見当たらないが、時間に余裕はなく、全て解き切るには相当の訓練が必要になる。正確な文法・語法の知識が全ての基礎となる。		

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。入試要項を参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「男女による謝罪の違い」 ○ 語数：566語 (昨年) 708語	謝罪の頻度が男女によって異なることを示した研究を取り上げた文章。空所補充 A の(2)は apologize to ~の受動態, (4)の d. the は、形容詞の前で用いて「~な人々」。D の内容一致では、選択肢 d. と f. はグラフからも判断可能。	標準
II	長文読解 「北米先住民の親族関係」 ○ 語数：445語 (昨年) 348語	北アメリカの先住民族がどのような親族関係を成立させ営んでいたかをヨーロッパと比較しつつ述べた文章。空所補充 A の(3)に入る those は、直前の non-biological relationships を指す。同義語句選択 B の(ウ)の building blocks は「構成要素」。	標準
III	長文読解 「動物は将来に備えるか」 ○ 語数：500語 (昨年) 500語	動物は将来に備えるかについて述べた文章。同義語句選択 A の(エ)は、a. set free が正解。下線部に当てはめると set free a fish で、VCO の倒置が起こる。質疑応答 B の(ii)は、d. の remember dropping が remember to drop だったら、正解になりうる。	標準
IV	文法・語法	(1) need Ving ~, 「(主語が) V~されることが必要」。 (2) clear A of B 「A から B を取り除く」。 (5) page が単数なので all でなく every を選ぶ。(6) 比較の倍数の位置がポイント。(7) known by O は「O によって (主語だと) わかる」ということ。	標準

設問別講評			
V	和文対照英文整序	基本的な文法や語法の知識があれば解ける問題ばかりである。難解な熟語等もなく、総じて取り組みやすい。(1)では、inform O that S V ~の第4文型、(3)では、関係代名詞の as、(4)では、完了形の動名詞が使われている。	標準
VI	会話文空所補充 「就活生へのアドバイス」 ○ 語数：304 語 (昨年) 250 語	アメリカで就職活動中の日本人留学生と社会人の先輩との会話。紛らわしい選択肢は少ない。(9)の reach out は「連絡する」という意味。(10)の選択肢 b. I saw what you meant は、時制が過去なので、文意に合わない。正解の c. I couldn't agree more は、couldn't で過去形が使われているが、仮定法であるため「全く同感です」という現在の意味。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)							
大問番号	設問数	選択式					
		空所補充	同義選択	質疑応答	内容一致	語句整序	その他
I	4	6	4	2	3/8		
II	3	5	5	2			
III	3		6	3	2/6		
IV	1	10					
V	1					5	
VI	1	10					

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数 を表している。

合格のための学習法
<p>関西学院大の入試で高得点を取るために最も重要なのは、身につけるのに多大な労力を要する英文読解力を強化することである。そのためにはまずできるだけ早い段階で、理解を重視した、英文を読むための文法を身につけよう。同時に毎日辞書を使って時間をかけて英文を読む生活を始めよう。スピードを気にすると英文読解は身につかない。もちろん市販の単語帳を使って毎日単語・熟語を覚えたり、過去問などを通して文法問題や語句整序、会話文など、関学が出題する多様な問題形式に慣れることも重要だ。しかし英文読解を通して語彙力や文法力を定着させていくという学習方法を基軸としてほしい。</p>